



新実行委員募集



2025年11月に開催される「第35回映画祭TAMA CINEMA FORUM」に向けて、私たちと一緒に活動してくれる実行委員を募集しています。実行委員は、上映プログラムの企画、作品・ゲスト交渉、PR活動、パンフレット等印刷物制作、映画賞・コンペティション作品選定、企業協賛依頼活動、映画祭当日運営・配信、HP作成などを協力して行います。ご興味のある方は、ぜひ2025年5月18日(日)の募集説明会にご参加ください。

説明会のお申し込みは公式ホームページ
またはQRコードからお申し込みいただけます。

<https://www.tamaeiga.org/staff/>



TCFからのお知らせ

映画祭 TAMA CINEMA FORUM 公式YouTubeチャンネル

映画祭TAMA CINEMA FORUM公式YouTubeチャンネルでは、映画祭プログラムや特別上映会でのトークの模様など、映画祭にまつわる動画コンテンツを公開中です。TAMA映画賞授賞式や企画プログラムのゲストトークの模様など、第35回映画祭のアーカイブ動画も順次アップ予定です。みなさまぜひチャンネル登録をよろしくお願いいたします!



映画祭 TAMA CINEMA FORUM:公式チャンネル
<https://www.youtube.com/c/tamaeiga-official/featured>

支援会員さまを募集 しています!

当映画祭を資金面でサポートいただける支援会員さまを募集しています。支援会員さま限定の特典をさまざまご用意しております。詳細はホームページにて。



<https://www.tamaeiga.org/support/>
【支援金寄付 個人会員】一口1,000円から
郵便振替番号: 00160-5-541123
加入者名: TAMA映画フォーラム実行委員会

TCFの最新情報やお問い合わせはこちらから

WEB www.tamaeiga.org

TAMA映画フォーラム
実行委員会
ホームページ



SNS @tamaeiga (TAMA映画フォーラム【公式】)



www.facebook.com/tamaeiga



[tama_cinema_forum](https://www.instagram.com/tama_cinema_forum)



たまシネマ通信 2025年春号 (2025/5/1発行)

発行元: TAMA映画フォーラム実行委員会 〒206-0025 多摩市永山1-5 ベルブ永山(永山公民館内)

編集・デザイン: TAMA映画フォーラム会報部会 / 企画・協力: TAMA映画フォーラム実行委員会

※掲載写真の権利はTAMA CINEMA FORUMに帰属します。 ※無断転載を禁じます

今年もおもしろい映画がたくさん!

たまシネマ通信

TAMA CINEMA FORUM

春号 2025年5月1日発行



2025年第3回TAMA映画フォーラム特別上映会作品
『SUPER HAPPY FOREVER』



©2024 NOBO / MLD Films / Incline / High Endz

CONTENTS ◎特別上映会レポート ◎TCF実行委員 これが私の推し映画! ◎新実行委員募集

お母さんが一緒 2025年2月15日(土)ベルブホール



© 2024 松竹ブロードキャスティング



和室に三姉妹が並んだポスターが小津安二郎監督のような家族を主題とした松竹大船調を彷彿とさせ、その雰囲気 expectations を期待されて公民館窓口で前売券をお求めになる方が多数いらっしゃった今回の上映。上映会当日、笑いとホンワカした雰囲気に包まれた2回目の上映後に橋口亮輔監督がご登壇されました。シニアの映画ファンが詰めかけた満席のお客様を前に、原作の魅力、三姉妹を演じられた女優陣（江口のりこさん、内田慈さん、古川琴音さん）の魅力、現場の裏話などを思わず引き込まれてしまう巧みな話術で語られ、会場は終始笑いに包まれました。客席とのQ&Aでは、橋口監督が感心するほどの確かな解釈の質問もあり、お客様も橋口監督も大満足の上映会となりました。

まーごめ180キロ 2025年3月15日(土)ベルブホール



© 劇場版まーごめ製作委員会



お笑いコンビ「ママタルト」の大鶴肥満氏の人生を追うドキュメンタリー映画。2021年に撮影され、今では貴重な映像となった今作を観るため、朝から会場に並んでいる方もいらっしゃいました。トークプログラム付の回は補助席を出しての満員御礼で、トークではママタルトの檜原洋平氏・大鶴肥満氏が登場。当時と現在での心境の変化など貴重なお話をいただくとともに、お二人によるボケの応酬で会場は笑いの渦に包まれました。23区や他県からお越しいただいた方も多く（広島からいらっしゃった方も!）、アンケートでは、「もう二度と観られないと思っていたので観ることができてよかった」という感謝の言葉が多数寄せられたほか、ひとりの人間のドキュメンタリー映画としての感想、トークに対する満足の声などもいただき、充実した上映会になりました。

ネタバレ注意

TCF実行委員
これが私の
押し映画!

『夜明けのすべて』

監督:三宅唱 / 2024年(日本)

パニック障害の発作で電車にも乗れない山添くん。その同僚でPMS(月経前症候群)の藤沢さん。生き辛さを抱える2人は、互いを助けようとする中で、緩やかに再生していきます。ある日、体調を崩して早退した藤沢さんの忘れ物を、山添くんが届けにいきます。以前藤沢さんがくれた自転車に乗って。これなら発作の心配はありません。街並みを軽快に走る山添くん。その解放感。自転車の動きが本当に気持ちいい。坂道は、手で押して登ります。一歩ずつ確実に。藤沢さんの家に着くと、玄関越しに声をかけて、顔も見ずに帰ります。ベランダから後ろ姿を見つめる藤沢さんの嬉しそうな顔。暖かな日差しが降り注ぎ、心地よい風がカーテンを揺らします。帰り道、山添くんも同じ日差しと風を感じています。穏やかな顔。眩しそうに目を細めます。人が、生きてて良かったと感じるのはこんなささやかな瞬間ではないでしょうか。そんな瞬間がたくさん詰まった、大好きな映画です。(玉川)

『ロボット・ドリームズ』

監督:バブロ・ベルヘル / 2023年(スペイン・フランス)

アメリカの作家サラ・パロンのグラフィックノベルが原作のアニメーション映画で、第96回アカデミー賞長編アニメーション映画賞にノミネートされています。80年代ニューヨーク、陽気な雰囲気に包まれたドッグとロボットの友情の移ろいを、セリフを排してリズムミカルに描いています。楽曲の使い方が素晴らしく、特にEarth, Wind & Fireの名曲「September」が印象的です。Septemberを2人の友情の象徴として用いることで、この楽曲が流れたシーンで様々な感情が押し寄せてくる、情緒に溢れた映画になっています。あえてシンプルに表現されているドッグとロボットの姿を自分に重ね、あの頃を共に過ごした人、離れ離れになってしまった人に、また会いたくなります。(U)

『ナタ 魔童の大暴れ』

監督:餃子(ジャオズ) / 2025年(中国)

中国の映画興行収入最高記録を樹立した2025年1月公開の中国のアニメーション映画です。原作は「封神演義」という物語ですが、かなり違いがあります。この原作は中国で生まれ育った私には思い入れのあるものですが、現代の中国社会や価値観に相応しい脚色をなされていて驚かされました。また本作はアニメーションの3DCGのほとんどを中国のアニメーション会社が担当しています。3DCG作画は精緻で、時に生々しく、色彩や光の使い方には他にない威力を感じます。物語を通じて中国の伝統的な文化や精神に触れられるとともに、大画面に相応しい力の入った映像は中国アニメーションの現在を体感できます。そして大人も子供も楽しい作品ですので、ぜひ劇場に足を運んでください!(つぶきち)